

モモの早期多収・省力型樹形の特徴

福島県果樹試験場 栽培部

平成17年度福島県果樹試験場試験研究成績書

1 部門名 果樹－モモ－整枝・剪定

分類コード 04-02-08000000

2 担当者 志村浩雄・木幡栄子・高野靖洋・相原隆志・増子俊明・畠良七・松野英行・桑名篤・永山宏一

3 要 旨

モモの早期多収・省力型樹形の開発を目的として、慣行の開心自然形との比較によりY字棚二本主枝、二本主枝、低樹高开張形、低樹高自然形の特徴を明らかにした。

(1) Y字棚二本主枝は、樹冠の拡大が早く、栽植密度が高いことから初期収量が多いが、枝葉の繁茂が著しいため夏季せん定量が多いこと、果実の着色が劣ること等が認められた。また、樹形や作業時の動きは単純化されているものの、作業性の良い高さの側枝が少ないことや、栽植密度が高いため、単位収量を生産するのに要する労働時間(仕上げ摘果・夏季せん定)は比較的多かった。

(2) 二本主枝は、Y字棚二本主枝と同様に栽植密度が高いことから初期収量が多いが、枝葉の繁茂が著しいため夏季せん定量が多く、果実の着色がやや劣る傾向が見られた。また、作業しやすい高さの側枝が少ないことや、栽植密度が高いことから、単位収量を生産するのに要する労働時間(仕上げ摘果・夏季せん定)は比較的多かった。

(3) 低樹高开張形は、初期収量は開心形と同程度であるものの、大きい果実の割合が多い傾向があり、樹の個体差も少ないことが認められた。また、樹高が低いため、仕上げ摘果などの作業効率に優れるが、夏季せん定量や夏季せん定に要する時間が開心形より多いことが認められた。

(4) 低樹高自然形は、弱せん定により樹冠の拡大が早く、さらに骨格枝が多いため栽植密度が同じ開張形・開心形と比較すると初期収量が多かった。また、樹高は低いものの、枝量が多いため初期着果量が多いことや、枝の構成が複雑であるため、作業効率の向上は認められなかった。

4 その他の資料など

平成11～16年度果樹試験場試験研究成績書